

直前東医歯大英語

【1 回目】



問題

【1】

解答

- (1) 「全訳」の下線部㉑参照。
- (2) 「全訳」の下線部㉒参照。 (3) cleanliness
- (4) 健康上必要とされる清潔さを保つ本能的欲求を備えていないため、清潔さを保つ術を強制的に教え込まれる必要があること。
- (5) Habits which children cannot acquire for themselves must of necessity be taught through a good deal of coercion.
- (6) A. 大人を喜ばせようと、自然な好奇心からではなく間違いのないように物を考える。
(37 字)
- B. 子供の自発的な活動と探究心を抑え体を動かす有用な習慣を身に付けるのを妨げること。(40 字)
- C. 涼を取るために必然的に水浴びをしたし、食べ物は料理せずに生で食べていたから。(38 字)

解説

- (1) 本問でのポイントは spontaneously in the way in which … の訳し方。the way (in which) … は「…の仕方」の意であり、「…する仕方のように自発的には」が直訳。言い換えると (they do not think) as spontaneously as … となる。つまり「子供たちは走ったり、跳んだり、叫んだりしている時は周りから強制されなくても自発的に行動しているが、考える時には自発的ではない」ということを言おうとしているわけである。「走ったり、跳んだり、叫んだりしている時のように、自発的に考えない」とすると走ったり跳んだりすることも自発的な行動でないようにもとれるので避ける。誤解を避けるためには「…する時のようには」または「…する時と違って」と訳すとよい。
- (2) 最初のポイントは the children doing ～ の部分。この doing は動名詞で、直前の the children がその意味上の主語である。したがって、この部分は「子供が非常に多くのことをすること」という意味になる。動名詞の意味上の主語は所有格か目的格で表されるが、本問のように動名詞が前置詞の目的語の場合や他動詞の目的語の場合は、目的格が用いられることが多い。
- もう1つのポイントは they had better be doing の部分である。had better … で「…するのがよい；…すべきである」の意。ここで be doing と進行形になっていることで、a great many of the things をするという‘行為’が重要である、というよりも、子供がそのような行為をしているのが自然な状態である、という‘状態’に重きを置いた形になっている。つまり「子供時代に子供があるべき姿」という意味合いが込められている。訳出の際にこのニュアンスを含めるのはなかなか難しいが、あえて説明的に訳すと「子供たちが(子供時代に)しているのが自然なはずの(非常に多くのこと)」ということになる。

○ abominable *adj.* 「忌まわしい；言語道断の」

○ tyranny *n.* 「暴虐〔非道〕な行為」

○ interfere with ～ 「～を妨げる」

- (3) 下線部の前に繰り返し見られる place の意味を理解すると、下線部の内容が明らかになる。この place は「本来あるべき場所；持ち場」の意であり、cleanliness ～ has its place in the morning and evening とは、「cleanliness は朝と夜に持ち場がある」つまり「cleanliness は朝と夜に必要である」ということ。したがって、その後の even this limited place は、「この朝と夜という限られた持ち場さえ」という意味になり、文の主語である下線部 it は cleanliness を指すことがわかる。cleanliness は本文後半のキーワードであり、ここでは身体を清潔に保つために入浴したり、シャワーを浴びたりすることを指す。

- (4) 下線部より後は歯磨きの習慣について、下線部より前は身体を洗う習慣について述べられている。いずれも原始人のような生活であれば必要ないが、現代の生活では必要な習慣であると結ばれているので、The same thing の指し示す内容は直前の but we … 以下であることがわかる。ポイントは、(we) have not as much instinct towards cleanliness as health requires および have to be taught の部分。つまり、健康のためには必要だが本能的に行われない行為は、教え込まなければならないということである。

- (5) 英訳の際には本文中の語句を参考にできる。

○ 「自分で身に付けることのできない習慣」は *ℓ. 63* の habits which they will not acquire for themselves を応用する。

○ 「かなり強制的に」は *ℓ. 53* の through a good deal of coercion が利用できる。

○ 「…する他ない」は「解答」では「必然的に…されなければならない」と解釈して must of necessity be taught ～ の表現を用いたが、能動態で表す場合は we have no choice but to … などの表現も使える。

- (6) A. 第2段落の *ℓ. 17* children who are forced to learn acquire a loathing for knowledge で、学ぶことを強いられた子供は知識に対して嫌悪感を抱くようになることが述べられているが、これは「感情」であって「物の考え方」ではない。すでに見たように、下線部①で、学ぶことを強いられた子供たちは「走ったり跳んだり叫んだりする場合ほど自発的に考えない」ことが述べられている。そういった子供たちの具体的な物の考え方は、下線部①直後のコロンの they think with ～ from natural curiosity. に述べられているので、ここをまとめればよい。

B. *ℓ. 46 ～ 50* において筆者は、子供たちが健康上1日に2回体を洗うことは大切だが、その間の時間は体を汚しながらあちこちを探索して過ごすべきであると述べている。親が子供を清潔にしようとするあまり、そのような子供の活動を禁じることの問題を述べているのが、その次の文の To deprive children of ～ である。問題点は to lessen ～ 以下に列挙されているのでこれをまとめる。

C. 直立猿人について述べられているのは *ℓ. 55* No doubt … 以降。まず体を洗うことについて述べられているのだが、*ℓ. 56* の in this way は前文の内容を受けて

いる。つまり、服を着ないで暑い気候の下で暮らしていたので、わざわざ教え込まなくても涼を取るために必然的に水浴びをするようになり、結果として体はきれいになったということ。逆に、服を着て穏やかな気候の下に暮らしている現代人はその必然性が低いので、教え込む必要があるわけである。歯磨きについては、ℓ. 58の If we ate ~ to brush our teeth に理由が述べられている。つまり、直立猿人は現代人と違って調理をせずに生で物を食べていたため、歯を磨く必要性がなかった。そのため、歯磨きを教わる必要もなかったのである。

全訳

教育における自由はできる限り尊重すべきだという主張は非常に強い。まず第1に、自由がないと大人との衝突が起こり、ごく最近まで考えられていたよりもはるかに深刻な心理的影響を及ぼすことが多いのだ。何らかの形で強制されている子供は憎しみをもって反応しがちであり、通例、憎悪を自由に発散することができない場合には、そうした感情は心の内にわだかまる。そして無意識の中に沈んで、その後生涯を通じて、あらゆる奇行につながり得る。憎悪の対象は父親から国家や教会、外国にとって代わり、このことが場合によっては人を無政府主義者や無神論者、軍国主義者にするかもしれない。さらにはまた、子供を抑圧する権威に対する憎しみは、その後、次の世代を同じように押さえつけたいという欲望に変わるかもしれない。あるいはただ漠然とした不機嫌さが残り、社会的、個人的に好ましい関係が作れなくなるかもしれない。ある日私は学校で、並の体格の男の子が彼よりも小柄な男の子をいじめているのを見つけた。私は注意したが、彼はこう答えた。「大きいやつらが僕をぶつから、僕は小さい子をぶつんだ。間違っていない。」この言葉で彼は人類の歴史を要約していたのだ。

教育における強制のもう1つの影響は、独創性と知的な興味が損なわれることである。知識欲、あるいは少なくとも、多くのことを知りたいという欲求は、子供が当然持っているものであるが、望む以上、あるいは吸収できる以上のものを与えられることによって、子供の知識欲はたいてい損なわれてしまう。食べることを強いられた子供が食べ物に対して嫌悪感を持つようになるのと同じように、学ぶことを強いられた子供は知識に対して嫌悪感を抱くようになる。④頭を働かせる時、そのような子供たちは、走ったり、跳んだり、叫んだりする時のようには、のびのびと自発的に考えることはしない。つまり、彼らは大人を喜ばせるために頭を使い、そのため自然な好奇心からというよりも、間違えることのないように考える。自発性を殺すことは特に芸術的な面で大きな害を与える。文学にせよ絵画、音楽にせよ、度を越えて、あるいは自己表現のためというよりは正確に表現するという目的で教え込まれた子供は、次第に人生の美的な側面に対する興味を失っていく。男の子の機械に対する興味でさえ、教えるすぎることによって損なわれてしまいかねない。もし授業中によくある一般的なポンプに関する原理を男の子に教えたとしたら、その子はあなたが教えようとしている知識を何とか学ばずに済まそうとするだろう。ところが、裏庭のポンプに触れることを禁じたとしたら、子供はできる限りの暇を見つけてポンプの仕組みを学ぼうとするだろう。こうした問題の多くは、授業を自発的なものにするによって避けることができる。そうすることによって教師と生徒の間の摩擦はなくなり、多くの場合、生徒は教師から教わる知識を学ぶ価値があるものと考えられるようになる。この場合、彼らの自主性は損なわれない。なぜなら

学ぶのは自分たち自身の選択によるからである。また、これからの生涯で、無意識の内にくすぶり続ける、解決されない多くの憎悪を蓄積していくこともない。言論の自由、礼儀からの解放、性の知識に関する自由に対する主張はさらに強いものではあるが、これらに関してはのちに別途考えようと思う。

以上のような理由から、私もそれで正しいと思うが、教育改革者は学校における自由をさらに拡大しようとしている。しかしながら私は学校における自由を絶対的な原則に格上げすることができるとは思わない。やはり自由にも限度があり、その限界がどのようなものかを理解することが重要である。

一番明確な例の1つとして、清潔さを挙げてみよう。まず初めに指摘したいのは、裕福な親を持つ子供の多くが必要以上に清潔にさせられているということである。親たちは清潔だと衛生的であるとの理由で自分たちの行動を説明するが、必要以上に清潔にする動機となるものは一種の上流階級気取りである。子供が2人いて、一方が清潔で、他方が汚らしいならば、清潔な子供の親の方が不潔な子供の親よりも収入が多いと考えがちである。そのため上流階級気取りの人々は自分の子供たちを極めて清潔にしておこうとする。^⑥これは、子供たちがしている方がよい非常に多くのことをするのを邪魔するひどく横暴な行為である。健康という観点から言えば子供は日に2度、朝起きた時と、夜寝る時に体を洗えばよい。その2度の苦行の間は、子供たちは、服を台無しにしたり、泥まみれの手で顔をぬぐったりしながら、一生懸命世の中を、特に汚い場所を探索すべきである。子供たちからこうした楽しみを奪うことは自発性と探究心を抑え、体を動かす有用な習慣の育成を妨げる。ただ、確かに泥まみれになることはとても素晴らしいことなのだが、前述のように朝と晩に体を洗うことも必要であり、さらにこの限られた行為でさえ、強制されて相当教え込まれることなくしては、子供の生活に根づかせることは難しい。もし我々が服を着ずに暑い気候の下で暮らしていたら、必要な清潔さも涼を取るための水浴びで得られるであろう。直立猿人がこうしたやり方で清潔さを保ったのは間違いない。しかし服を着ており温暖な気候の下で暮らしている私たちは、健康上必要なだけの清潔さを保つに足るだけの本能的欲求は持っていない。そのため私たちは体を洗うことを教えられる必要がある。同じことが歯磨きにも当てはまる。もし私たちがはるかな祖先と同じように食物を生で食べるなら、歯を磨く必要はないだろう。しかし料理という不自然な習慣を維持する限り、私たちはもう1つの不自然な習慣、つまり歯磨きによってバランスをとる必要がある。「自然に帰れ」という主張は、もし健康と両立させるのであれば、徹底的でなければならないし、衣服の着用と料理はやめなければならない。もしそこまでやる気がないのならば、私たちは子供たちに自分1人では身に付かないような習慣を教える必要がある。そのため、清潔さと衛生に関する問題については、従来の教育は非常に強く自由を制限してきたのであるが、それでもなお健康のためにはある程度の制限が必要である。

注

ℓ. 1 ◇ case *n.* 「主張」

ℓ. 4 ◇ hatred *n.* 「憎悪；嫌悪」

◇ give vent to ～ 「～をぶちまける〔発散させる〕」

ℓ. 5 ◇ fester *vi.* 「胸にわだかまる；つのる」

- ◇ the unconscious 「潜在意識；無意識」
- ℓ. 8 ◇ anarchist *n.* 「無政府主義者」
- ◇ atheist *n.* 「無神論者」
- ◇ as the case may be 「場合によって；ケースバイケースで」
- ℓ. 10 ◇ moroseness *n.* 「不機嫌さ」
- ℓ. 12 ◇ ill-treat ～ *vt.* 「～をいじめる」
- ◇ expostulate *vi.* 「諫める；諭す」
- ℓ. 13 ◇ epitomize ～ *vt.* 「～を要約する〔縮図的に表す〕」
- ℓ. 17 ◇ assimilate ～ *vt.* 「～を吸収する」
- ℓ. 22 ◇ to excess 「過度に」
- ℓ. 23 ◇ progressively *adv.* 「次第に」
- ℓ. 26 ◇ impart ～ *vt.* 「～を詰め込む」
- ℓ. 41 ◇ on the ground that … 「…という理由で」
- ◇ hygienic *adj.* 「衛生的な」
- ℓ. 42 ◇ snobbery *n.* 「上流崇拝〔気取り〕」 < ℓ. 44 snob *n.* 「上流気取りの人」
- ℓ. 48 ◇ grub about 「(土を掘って) 探し回る」ここでは explore と併用することで「活発に〔一生懸命〕探検する」といった意味合い。
- ℓ. 49 ◇ grimy *adj.* 「ほこりで汚れた；汚い」
- ℓ. 61 ◇ cult *n.* 「流行；～熱」
- ◇ compatible *adj.* 「矛盾しない；共存できる」

【配点】 40 点

- (1) 5 点 (2) 5 点 (3) 3 点
- (4) 6 点 (5) 6 点 (6) A. 5 点 B. 5 点 C. 5 点

【配点の目安】

- (1) When they think, they do not think spontaneously in the way in which they run or jump or shout (5 点)
- spontaneously in the way in which … の誤訳 - 2 点
- not の射程が曖昧な訳「～する時のように…しない」としたもの - 1 点
- (2) 以下のように2つの区分を設定する。単語レベルのミス・脱落は1件につき1点減点とし、区分を超えて減点はしない。
- ① This is an abominable tyranny which interferes with the children doing a great many of the things (3 点)
- the children doing ～ の the children を doing の意味上の主語として訳していないもの - 2 点
- ② they had better be doing (2 点)
- (4) ① (快適な環境にいる) 我々は健康上必要な清潔さを保つ本能的欲求を備えていない (3 点)
- ② よって、清潔に保つ術を教え込まなければならない (3 点)
- (we) have not ～ wash の内容を正確につかめていないものは、①、②の観点より減

点する。

- (5) 以下のように2つの区分を設定する。単語レベルのミス・脱落は1件につき1点減点とし、区分を超えて減点はしない。

①子供たちが自分で身に付けることのできない習慣は(3点)

「自分で」などの要素の脱落 - 1点

②かなり強制的に教え込む他ない(3点)

「かなり強制的に」や「他ない」などの要素の脱落 - 1点

- (6) A. ①大人を喜ばせるために(1点)

②自然な好奇心からではなく(2点)

③間違いのないように物を考える(2点)

①～③の観点から減点する。

B. ①子供の自発的な活動と探求心を抑え(2点)

②体を動かす有用な習慣を身に付けるのを妨げること(3点)

To deprive children of these pleasures ~ habits. をもとに、①、②の観点から減点。

C. ①涼を取るために必然的に水浴びをした(2点)

②食べ物は料理せずに生で食べていた(2点)

③「～から」など理由を説明するのにふさわしい表現(1点)

「体を洗う」と「歯を磨く」ことの2点について言及されていないものは①、

②の観点から減点。

【2】

解答

- | | | | | |
|-----|---------|---------|---------|---------|
| (1) | 1. (F) | 2. (T) | 3. (F) | 4. (T) |
| | 5. (F) | 6. (T) | 7. (T) | 8. (F) |
| | 9. (T) | 10. (F) | 11. (T) | 12. (T) |
| | 13. (T) | 14. (F) | 15. (F) | 16. (T) |
| | 17. (F) | 18. (F) | 19. (T) | 20. (T) |
| | 21. (T) | 22. (F) | 23. (T) | 24. (F) |

- (2) A. He wants to show how strong the relationship between dogs and humans is. (13 words)

B. It enabled human beings to settle down, which made it unnecessary to move from place to place in search of food for their animals. (24 words)

- (3) 「全訳」の下線部a, b参照。

- (4) 人間の進化に影響を与えた事柄の「上位ランキング」を作成するとしたら、狩猟・加熱調理・言語・2足歩行が入るだろうが、最も重要な出来事は動植物の家畜化・栽培化で、長い家畜化・栽培化の歴史の中で我々の祖先が最初に馴らしたのは犬だった。(114字)

牡蠣は見事なものだったが、同席の客はなおいっそう素晴らしかった。私はパリの小さなビストロで新鮮な貝の皿を前に座っており、海の味を楽しんでいた。だが、その日、より強く記憶に残ったのはレストランのもう1人の客についての方だった。私の隣のテーブルには寸分の間もなくコーディネートされた装いのフランス人女性が座っていた。彼女のバッグ、スカート、靴下はすっかり調和がとれている——とは言わないまでも、人目を惹くには十分だった。彼女の食事の連れは右手に座っており、それはトイブードルだったのだが、椅子の上でテーブルの上のボールから水を飲んでいて。彼の食事（チキンだったと思うが）のかけらが皿のそばにこぼれており、飼い主のパンくずと混ざっていた。

犬は世界中の多くの人の生活で重要な役割を果たしている。私は1カ月に及ぶアジアとアフリカでの調査旅行から帰る途中にごく短期間パリに立ち寄っていたのだった。時差ぼけだったのかもしれないが、この出来事についての私の記憶は超現実的だと言われるだけのものになりかねない。旅行の間に私はボルネオのある地域で時を過ごしたが、そこは人々が犬を食べるところで、私自身少なくとも1回それと知らずに犬を食べたことがある。私はまたマレー半島のイスラム教の地域も訪れたが、そこでは信心深い人々が宗教上の信念のために、犬に触れることさえしないのである。さらに、私は中央アフリカで過ごしたが、そこで私は地元の猟師たちが自分たちの小型でおとなしい狩猟犬であるバセニーと働くのを見た。バセニーは、自力で生きているが、残飯と引き換えに森林の中まで猟師について行き、猟師が獲物を捕まえるのを手伝う犬である。アメリカ合衆国では、多くの人が犬を家族の一員として扱い、高額の治療費を支払い、犬が死ぬと喪に服するのである。サンフランシスコの我が家の近くの浜辺に座していると、誰かが自分の愛犬の口にキスするのを目にしなくて1時間を過ごすのが難しいほどだ。パリのあの女性が自分の犬と食事をともにしているのを見たことで、我々とこの動物たちがまさにどのように結び付いているかが強くわかった。

我々の持つ犬との密接な関係は、仲間としてであれ、労働力としてであれ、食事をともにする同席者としてであれ、食糧源としてであれ、我々にとって驚くべきものではない。犬は人間の歴史の中で特別な役割を演じている。人間の進化に影響を与えた事柄の「上位ランキング」を作成するとしたら、確実に狩猟と加熱調理がランクインするだろう。言語と2足歩行能力もそのリストに載るだろう。だが、我々の種の重要な歴史的出来事の中で中心に位置するのは家畜化・栽培化であり、犬は我々の祖先が飼い馴らし栽培した数々の動植物の筆頭だった。

動植物を家畜化・栽培化する能力は、人間的であると我々が見なすものの大部分の基礎となっている。家畜化・栽培化のない世界を想像するためには、私が数年間一緒に仕事をしたことのある中央アフリカに暮らすバカ族とバコーリ族（いわゆるピグミー）や南米のアチェ族のようなまだに狩猟採集生活を行っている地球上の数十の人間集団の1つと時を過ごさねばならないだろう。このような人間集団には、パンやコメやチーズがない。農業がないので、収穫と植え付けの成功を神に感謝する巡礼の旅やそれに関連する祭礼を含む、地球上の主要な伝統である多くの儀式的行事がまったく存在せず、ラマダンや復活祭や感謝祭のような休日もない。羊毛も綿もなく、野生の樹皮や草から作られた布地と狩猟された動物の皮が

あるだけだ。

これらの狩猟採集民には複雑な歴史があり、彼らの多くが採食生活に戻る前のある時点である種の農業に従事して生活していた。だが、彼らは我々に、広い範囲に及ぶ家畜化・栽培化の到来以前の我々の祖先の暮らしがどのようなものであったかについて興味深い手がかりを与えてくれる。狩猟採集民に共通する特色の中に小規模の人口と遊牧民的生活様式がある。これらの特色は、この人々に微生物のレパトリーを低レベルに保つことに、重要な効果がある。

家畜化・栽培化への最初の人間の進出は、オオカミを我々が今日知っている犬に変えることによって始まった。考古学的証拠と DNA 鑑定から、早くも 3 万年前には中東と東アジアの住民がハイイロオオカミの家畜化を始め、彼らを食用と毛皮用に利用するばかりか番犬や労働犬に変えるようになったということがわかる。犬の家畜化の初期の歴史はいまだにはっきりしない。1 つの仮説は、オオカミが人間について行き、人間の獲物の腐肉をあさり、やがて人間に依存するようになって、これがオオカミの後の家畜化のお膳立てとなる従属関係となったというものだ。④だが、それがどのように始まったにしても、1 万 4 千年前までには犬は人間の生活と文化になくてはならない役割を果たすようになった。イスラエルのいくつかの遺跡発掘現場には、人間と犬と一緒に埋葬されていさえた。こういった初期の犬は、私が一緒に仕事をした中央アフリカの猟師たちに好まれたおとなしい猟犬である、現代で言うバセニー犬に似ていたのだろう。

我々が何か他のものを家畜化・栽培化する 1 万 2 千年前頃に起こった犬の家畜化は続いて起こることになるものの初期の前触れだった。1 万年～1 万 2 千年前頃に、家畜化・栽培化革命が本格的に起こり、ヒッジとライ麦から始まって、その後にさまざまな他の動植物が続いた。

家畜化・栽培化革命の結果と機会は重大なものだった。家畜化・栽培化より前には、人間の個体数は野生環境で入手可能な食物によって限られていた。⑤野生動物は移住するが、こうした野生動物を狩猟することに依存していた我々の祖先も同じことをするように強いられた。その土地の生息環境にある野生の果実と他の植物性食物は散在していたので、季節ごとに移動を強いられた。野生環境は、いくつかの軽微な例外はあったが、大規模人口を支える能力を欠いていた。結果として、人口規模は小さく、おそらく 1 つの集団に僅か 50 人から 100 人で、また流動的であった。

5 千年～1 万年前頃に家畜化・栽培化が本当に始まると、これはすべて変わった。栽培植物と家畜動物を組み合わせ、人間は 1 年中持続するカロリー源を持つ能力を得た。農業（つまり、植物の栽培化）は人間集団が 1 カ所にとどまることを可能にし、家畜動物だけを持つ人間集団（家畜の群れの餌を見つけるのに移動することを必要とする）と同様に、狩猟採集民をも特徴付ける絶え間ない移動をしないで済むことを可能にした。定住性の生活様式と食料剰余の能力は住民数増加の可能性を急激に高め、最初の町と都市の成立につながった。より大きな人口規模、人間の集団的定住、そして家畜の個体数増加という特別な組み合わせが、人間と病原菌の関係を変質させるのに中心的な役割を演じることになるのだった。

【配点】 60 点

- (1) 24 点 (各 1 点) (2) A. 4 点 B. 6 点
(3) 16 点 (各 8 点) (4) 10 点

【配点の目安】

- (2) A. 「人間と犬の関係が強い」という趣旨を正しい英文で記しているものに 4 点を与える。表現上のミスや、本文中からの露骨な抜き書きのあるものは 2 点減点。
B. 「栽培化が人間の定住を可能にし、それが家畜の餌を求めて移動することを不要にした」という趣旨を正しい英文で記しているものに 6 点を与える。表現上のミスや、本文中からの露骨な抜き書きのあるものは 3 点減点。
- (3) ① 以下のように 3 つの区分を設定する。単語レベルのミス・脱落は 1 件につき 1 点減点とし、区分を超えて減点はしない。
① But no matter how it began (2 点)
② by fourteen thousand years ago (2 点)
③ dogs played an integral role in human life and culture (4 点)
④ which … to do the same が前節 Wild animals migrate を先行詞とする非制限用法の関係詞節であることを理解していないものは 5 点減点、単語レベルのミス・脱落は 1 件につき 1 点減点とする。
- (4) 第 3 段落の内容を、与えられた 3 つのキーワード(「上位ランキング」、加熱調理、家畜化・栽培化)を用いて、まとめようとしているものを採点対象とし、以下の要素に加点する。
① 「人間の進化に影響を与えた事柄の「上位ランキング」に狩猟・加熱調理・言語・2 足歩行が入る」という内容 (3 点)
② 「最も重要な出来事は動植物の家畜化・栽培化である」という内容 (4 点)
③ 「(家畜化・栽培化の歴史の中で) 我々の祖先が最初に馴らしたのは犬だった」という内容 (3 点)



会員番号	
------	--

氏 名	
-----	--